

## 【サービス事業所・居宅介護支援事業所意見抜粋】

●今後、より良い「地域生活応援会議」を運営していくために改善するとよいと思われる点、並びにどうするとそれが実現できるか。

- ・アセスメント項目が多く、全てを実施する為に別に時間を取られる。難聴の高齢者は時間がかかります。
  - ・方向性があまりにも「介護保険卒業」に重点を置き過ぎではないか？
  - ・応援会議のポイントは、専門職からご意見をいただける点と、ご利用者が今後卒業できる方なのか、サービスが無いと生活に支障が出てしまう方なのかの見きわめをしっかりと、今後の支援方向を具体的に検討する場と感じています。
  - ・アドバイザーの方がご利用者様と会って頂けるとよりよいと思う。
  - ・あまりの人の多さに圧倒されました。
  - ・会議が慢性的に予定の時間からずれる傾向にある。組まれた日程の順守をしっかりと行って頂きたい。
  - ・オブザーバー、アドバイザーからの意見がどうも上からとしか思えない。
  - ・サービス導入の有無や必要性を議論するのではなく、ご利用者様のニーズや思いをベースに、向かっていく方向性やより良いサービス内容にする為の連携について議論する会議になっていったらと感じております。
  - ・開催頻度、構成メンバーを見直してはどうか。
  - ・迅速な相談支援やサービス調整は必須。限られた財源と人材を有効活用していく必要がある。地域ケア会議は支援困難ケースや多職種連携が必要なケースのみに絞り、その判断は地域包括が行い、必要に応じて専門職を招集、開催すべきではないか。その為の各地域に精通した専門職を配置した地域包括だと思う。
  - ・まずは提出する書類を作成する事に大変時間がかかりました。  
「会議につつまれたくない」との思いが強くなり、結果大事なポイントの記入ができていなかった。という事がありました。→もっと簡単に準備する資料も少なくなるとありがたいと感じました。
  - ・こちらが伝えたい意味、出席されたアドバイザーの方の受け止められ方を統一させる事は、やはり一番大変な作業であると感じました。こちらの意思を伝える時間も短く、とても消化不良感を感じました。→初めに利用者様の事を伝える時間をもっと長く設定してはどうでしょうか。書類に記入できなかった、表現できなかった「担当の思い」をぜひ伝えさせていたいただきたい。アドバイザーからの指摘や助言は、担当者にとってとてもダメージが強い場合があります。真摯に受け止める事はもちろんですが、そういう思いがある事もご承知いただければありがたいと思います。
  - ・プラン立案前にアドバイスをして頂ける形にしてほしいです。
- 地域生活応援会議について自由にご意見・ご感想をお書きください。
- ・独自のサービス、総合事業サービスなどの一覧があると助かる(市外の事業所より)
  - ・緊張するけど勉強になるし、ケアの参考になる
  - ・大きな変化を起こす時には始めてみないとよい変化も悪い変化も起こせないと思っています。
  - ・サービスが整っていない為、必要な選択ができるような体制になっていない。
  - ・毎週、全ての包括職員が出席することが必要な会議か。包括の職員の負担が大きいのではないか。
  - ・応援会議で、アドバイザーの方が多く参加されていましたが、ほとんどの方は意見を言う時間も無く、ただ参加しているだけになっていた様に感じます。時間を上手く調整する、もしくは必要最小限のアドバイザーの参加でいいのではと思います。

・理解不足もあり、包括様の方へお話し、質問にも行かせて頂き、しっかり答えて頂けてます。

・介護認定の意味はどこへいったのか。要支援と認定をうけ自立の為のサービスを計画されるが、応援会議上では「6ヶ月卒業」ありきで話が進む。ケアマネやサービス担当者のアセスメント力が上がったところで、家族と本人を置きざりにした応援会議で重箱の隅をつつく様なアドバイザー、オブザーバーの意見。90歳オーバーの人をどこまで自立自立とせつつのか。桑名市の財政悪化のシワ寄せを高齢者に押し付け。介護保険利用者は介護保険料も健康保険料も納めている。金だけ取って使わせないとどういう事か。エアコンの効いたキレイな施設でがん首並べて出す意見に何一つ感心した事はない。そんな税金の使い方よりもケアマネと一緒に一軒でも利用者宅を回って、自分達でアセスメント取ってみてはいかがですか。

・会議が非常に細部まで利用者の状態を出席者にわかるようになっており、また、目標に向けた取組もしっかりした内容と思われる。(数値目標も上がっている。)

・自立支援の意識を高めることができるようになった。

・「半年間で卒業」という期間設定があることで利用者にとっても意識しやすい。

・地域生活応援会議にかけるケースに限らず、要支援者のプラン作成については、プラン作成前よりプラン承諾まで何度も地域包括支援センターに通い、修正を重ねてやっとOKが出るため、正直毎回二度手間に思えてしまいます。不可能な事とは思いますが、委託をなくし、包括支援センターの方で全て担当して頂くのがいちばん良いと思います。

・応援会議を開催する事に意義はあると思う。しかし、開催の目的が利用者さんの自立支援のためにはどうすれば良いのかを話し合う機会であるべきなのに、プランの書き方など形式的な事ばかりになっている感じを受ける。

・主治医の判断などの意見を求められるが、専門外の内容だと答えただけでないことがある。(当然ではあるが)また、総合病院の先生が主治医の場合、さらにハードルは高くなる。スムーズに連携が取れるように、保険者として応援してもらいたい。例えば、主治医意見書のようなものを依頼していただくなど..勿論報酬は発生すべきだと思う。

#### 【地域包括支援センター意見抜粋】

●今後、より良い「地域生活応援会議」を運営していくために改善するとよいと思われる点、並びにどうするとそれが実現できるか。

・会議にかけてどうするべきかはっきりしてほしい

・応援会議のアドバイスを盛り込んだのちの修正プランの閲覧ができるとありがたい

・各専門職種が利用者を実際に見ていない状況下で総合的な判断をすることには限界を感じる。

・よほどずれていない限り関係者が課題を共有し、解決に向けて実施する力を引出し、必要な専門職の意見と結び付けて利用者が納得できるプラン内容とすべき。

・ケースを通じて、地域課題は見えてきていると思う。

・「地域作り」も各部門でそれぞれの立場で現在も取り組んでいる所だが、多様な実施主体で通いの場やいろいろな形の「専門職が関与する短期集中教室」など、今後検討していけると良いと感じている。地域課題に対して、地域作り、政策形成がなされた成功体験により、参加者のモチベーションは高くなると思う。

・既に自立支援型の地域ケア会議は他市においても立ち上がっているようだが、桑名においては、主治医から「通所サービス」で機能訓練するようと言われて相談に来られる方も少なく、「通所サービス」の利用が増えている要因ではないか。通所と訪問を一体的に利用していく事をケースによるが、しかし一定のレベルで標準として検討していくのも1つの方法であると感じている。

・介護支援専門協会のアドバイザーの方が、ケアプランの記載の仕方に終始することなくケアプランから課題の抽出や課題解決のための目標設定、目標達成の手段についての助言が重視されてきていると感じることがあり、とても意味がある。今後さらに「合意形成」についてや利用者や家族の「やる気」スイッチを押す方法、家族との調整法等ケアプランの検討も大切ですが、さらに対人援助についても助言をしてもらえるとうるさくなく感じる。

・時間内に終わるような会議にして欲しい。発言がない方にはコメントを振らなくてもいいと思う。CMも基礎資格はあり、基本的なことなら発言はいらない。

・アセスメント様式が多く、記入をどこまでしていいのかわからない。

今の生活機能評価の○・△は個人差があり、担当したCMによりサービス利用が変わってしまう。事例を挙げて説明が欲しい。書いていないとわからないと言われると、どこまで書く必要があるのか。明確にして欲しい。

・地域生活応援会議の進行が司会によって変わる。それはどうしてか。例えば最初から継続はなし、終了(卒業)と決めてしまっている。地域生活応援会議の場合は、その人の自立支援をどのようにしたら、介護保険サービスなどを利用しなくてもできるのか助言してもらおう場だと思っていた。そのために、専門職のアドバイザーがいるのだと思っていた。最初からこのケースでは、無理と決めつけなくて欲しい。

・生活応援会議は2回目の時に永続的自立支援課期間的自立支援かを検討してはどうか。(件数が多くなってきて、時間がかかってしまう。)

・ケアマネだけではなく、事業所、本人を含め自立に向けて同じ方向を向いていないと、ケアマネだけが、卒業を目指しては、達成できない。事業所側の認識を深めることが大切と思う。

・包括支援センターにより委託先居宅への指導の仕方が大きく異なっているように思われる。包括それぞれに指導能力の差が出るのは本来あるべきではない。その点において市から包括支援センターへの指導も必要ではないか。⇒応援会議に、その日のプランナーの発言内容やプランに関して改善点等があれば、市から、それぞれの包括支援センターへ指導する。※包括が、どの程度そのケアマネを支援したのか確認する必要がある。ケアマネの質の向上にもつながらないと感じる。

・アドバイスがずれているときがある。市役所職員が介護保険の理念やケアプランの勉強を積んでほしい。

・アドバイザーが多く、多角的にケースを検討する事ができ、貴重な経験を積める場でもあると思います。それ故に、アドバイザーからの意見は、内容の濃いものを求めたくなるのですが、アドバイザーに人数が多い分、焦点を当てるべき内容に対して、深く掘り下げることが難しいと感じます。ケースに対して意見があるアドバイザーだけの発言に絞り、もっとケース検討を深めることで、有意義性が増すのではないかと思います。

・応援会議に参加をすることで、専門職の話を聞くことができたり、プランのことや資源のことで勉強になります。実際に対応をしたことのない病歴がある人のケースで、どのようなプランを立てたり、どの点を注意して関わっていかなければならないかなどは、閉じこもった環境で勉強をしては学べないことなので、今後出会うケースに活かせると感じます。反面、アセスメントに使うための時間が莫大なので、聞き出すのに苦労する。また、卒業となった際に行く場所がなかったり、家族が説明をしてもまだ支援の認定が残っているのにどうして使えないのかということをおぼろげに感じることがあるのでとても悩んでいます。

・福祉職のプランナーであると、やはり医療的な視点が弱かったりします。医療の視点のアドバイスも、各包括保健師・看護師から積極的に意見が出るといいと思いました。

●地域生活応援会議について自由にご意見・ご感想をお書きください。

・アセスメント能力やスキルアップに必要なと思うが、極力短時間の会議になればと思う。

・専門職のアドバイスはとても勉強になる。資質の向上につながる

・目に見える成果をあらわしていくといいのでは？

・会議の場はそれなりの立場で意見を言いつつではなく進行上で集約し優先順位を具体的に決めて実行可能なケアプランにまとめることで課題やテーマの共有ができるのだと思う。

・えぷろんサービスでの利用も良いのではないかとと思われる訪問介護サービスもなかなか担当ケアマネさんと合意できない時もある。

・応援会議が始まり、アドバイザーの方々から意見が聴取できることにより、自身に知識を増やすことが出来ている。また、それを参考に、他の利用者の方にも会議でのアドバイスを生かし、自身の言葉にして自信を持って伝えることが出来るようになった。自分だけの偏った目線が多方面から見ていただくことで、利用者の自立支援につながっていると考える。

・応援会議にプランを提出すると責められているように感じ、他のCMの会議に参加すると包括の人数も多く、桑名市・包括にCMが責められているように感じる。どちらにしても参加がしやすい会議の場にして欲しい。事業者に対しても指導的な立場でもあるでしょうが、否定的な言葉を多く感じる。

・介護保険サービス事業所・住民さんに再度、自立支援に向けて桑名市は動いているということを啓蒙活動してほしい。(広報くわなに載せるとか)

・提出者は必死。でもこの1年やってきて、市の覚悟が感じられない。これだけの事例が出ているのに関わらず、一度も市から「地域課題」という言葉が聞かれていない。すべてケアマネ、包括、事業所任せ。「介護保険の抑制」と言われても仕方がないと思う。

・全てにおいて、基準を明確にして欲しい。ケースバイケースでは公平ではない。公平な運営をお願いしたい。

・地域介護課が参加していますが、介護保険制度についてもっと理解をしてほしい。青本をもって参加するぐらいでもいいと思う。

・まず、市職員が外に出向いて、市のおかれている現状、財政維持をもっと市民に訴え、自助、互助の精神を定着化する努力をされたい。

“介護保険のお世話にならなくてすんだ、良かった。”と、皆さんに思っていたような桑名市に変えていくことが必要ではないか。市職員が規範的統合の意味を取り違えているのではないかと感じている。“市職員が現場を知らなさ過ぎる”、“住民の声を代弁しても理解しようとしな”と感じている。

・地域課題の把握や施策化についても応援会議の目的と思っているが、こちらの方がなかなか進まないし、質問してやっと答えていただくような状況である。昨日の応援会議で、くらしいききの選択肢が少ないとの発言に対しては一言も桑名市からの発言を聞けなかったのが残念であった。どういうニーズがあって、何が課題なのか、参加者の意見をきちんと聞ける桑名市にならないと規範的統合はありえないと思う。

・自立支援の視点に立って、サービスに依存しないように利用者へ話を進めても、利用者及び家族としては、一番楽なサービス依存型の生活を強く希望されるケースもある。なんとか押し切ってサービスを使い続けようとするケースに対して、理解して自立支援を目指すよう納得して頂く労力は大きい。市からも、自立支援について市民への理解を深めて頂けるよう広報活動をお願いしたい。

・応援会議は必要だと思います。OJTになってる。新人にもいいが、古株の石頭にもガツンときます。ケアマネジャーから傍聴を重ねたいとの声もありました。

・応援会議に出席していることで、委託ケースについて、応援会議の視点でアドバイスができるようになりました。今までは目上のケアマネさんに対して意見することに対して、消極的な部分がありました。例として、委託ケアマネさんが持ってきたプランが、デイでの入浴が主で、家では入浴できないプランでした。なぜ入浴できないのか、環境は整えることができないのか、ケアマネさんと話し合いました。書き直しのプランが、自宅で入浴できることを目標にしたプランに変わっており、よかったですと思いました。更新で、要介護から要支援に変わったことで、プランの変更にも本人も、ケアマネも戸惑ったようです。しかし、それ以前から要介護の認定期間はあるものの、状態としては、ずいぶん自立してきている部分もあったかと思えます。認定の期間に関わらず、その人に合ったプランを提供するのが本来の仕事であるのですが、「利用できる権利？があるから利用する」という現状はまだ変わっていないと感じました。過去の私もそうであったように。

・状態から見て、必要でないサービスは減らしていけるといいのですが、それに甘んじてしまっているのが現状だと思います。介護保険制度そのものを考え、申請時から、あるいは申請する前から、ご理解を得るための周知も必要だと思います。

・活用されていない総合事業のサービスに関して、検討の必要性があるのでは？

・もっと住民に自立支援を知ってもらう活動を！

## 【アドバイザー・オブザーバー等意見抜粋】

●今後、より良い「地域生活応援会議」を運営していくために改善するとよいと思われる点、並びにどうするとそれが実現できるか

・自分自身の能力の向上(適切なアドバイスができるように)は大前提ですが、ケアマネージャーと司会者、アドバイザーが同じ視点(共通の課題)で話ができると良いと思います。

・ケアマネージャーがケアプランを立てた経緯の中で、どの点が困難だったかわかると良いと思います。

・現場は利用者の思いを聞きながら、自立支援に向きをかえないといけないということで、悩んでおられるのではと思います。その解決策をもっと提案していける会議になればいいのかなと思います。

・司会者で課題を明確にいただいているので、アドバイザーを指名していただき、その他に発言のアドバイザーは、挙手するといいいのではないのでしょうか。

・応援会議の意義の再確認。

・アセスメントシートを的確に記入することができるように制度での支援必要(定期的な研修の実施など)。

・疑問や困っていることを相談できるような場(ケアマネージャーさんが)が必要。

・現場を理解した上で、アドバイザーは的確なアドバイスをするためのスキルアップが必要。  
→アドバイザーの現場の確認など。

・発言をアドバイザーも参加者にも求めているので、どうしても時間がかかっている。いろいろな意見を聞くことも大切であるが、時間短縮を考える必要があるのであれば、多くの意見を求めるのは困難になる。時間短縮か多くの意見、どちらをとるのか決めておくことも必要なのかと感じる。

・ケアプラン等の資料は、当日配布。すべての参加者がその場で黙読し、意見交換をする方法に変更してはいかかでしょうか。また、事例提出者が、尋ねたい内容を先に、専門職に質問する時間を設けてはどうでしょうか。

・自立支援という捉え方、介護保険制度の捉え方、保険者としての機能への認識の共有と、個人レベルケアプランについて(専門性として、ケアマネだとアセスメントとプランと調整する力、事業者だと、自立の捉え方と機能評価、プラン力、アドバイザーだと、ケアマネや事業所の意向の汲み取りと、予後予測を含めた現プランのエビデンスの説明など)向上を図っていく。

●地域生活応援会議について自由にご意見・ご感想をお書きください。

・現場と応援会議の場がもっと歩み寄れると良いと思います。

・今まで会議を行ったケースで、卒業できたケースの数、内容、また卒業できたケアプランを作成したケアマネージャーさんの話など知りたいです。

・最初の頃に比べると、張りつめた(良い意味です)雰囲気はなくなってきている。

・ケアマネさんや事業所側の方からも、落ちついた雰囲気で意見が聞けていると思う。

・各包括参加人数を減らす

その時間を他の職員で、今後は桑名市の現状とともに市民に周知していくことに力を入れいった方が良い気がします。参加した職員は、参加できなかった職員への情報伝達を図る。 “ 毎週水曜日は、生活応援会議と市民へのPR日！ ”

・大変勉強になる反面、時間がとられているのも事実。1年経過したところですし、必要書類の見直しや、アドバイザーの助言のスタイル(上記、時間の短縮とケース数減らす為に)など変更していくと良いかなと思います。